

学校関係者評価委員会における主な意見

令和6年6月18日(火)実施

○委員からの質問, □委員からの助言, ●農大の回答

1 入学生の確保

- 入学生確保に積極的に取り組んでいるが、高校の生徒数の減少が著しい。
小学生、中学生は農業に興味を示すが、農業高校への進学する生徒が少ないが、原因を調査しているのか。
- 農業系高校も生徒が減少傾向であり、私立高校や普通科系高校に進学者が多くなっている状況であることから、農大も農業系以外の高校にもアプローチが重要である。
- 小、中学生の意向把握などは実施できていない。
- オープンキャンパスの回答者数が、令和5年度のデータと比較して少ないのは何故か。
- データは、令和6年度データを使用しており、人数が少なくなっている。今後、8月のオープンキャンパスのアンケート結果も加えて提示したい。

2 学生教育の充実

- 自分の将来を描いている学生は、将来必要な資格取得に積極的に取り組んでいるが、将来に不安を抱いている学生は資格取得に消極的なのではないか。
- 将来の進路を決めかねている学生も多く、就農・就業相談会などの場を活用して個別に将来についての指導を実施している。
- 農家留学研修の評価が低かった学生には、フォローアップがあるのか。
- 農家留学研修の評価が低かった生徒は、コミュニケーション不足と考えられるため、スピーチの向上に向けて担任によるスキルアップに努めている。
- 近年は、農業簿記資格取得やGAP、農薬管理指導など今後の農業経営には必要な資格取得は重要であるが、先生による指導は多岐で大変と感じる。
そこで、専門家による講義を開催することにより、先生の負担軽減につなげるべきではないか。
- 専門家の活用は、今後の検討課題である。

3 就農・就業の進路指導の充実

- 県外学生の県内への定着状況は調査しているのか。
- 具体的な数値は今持ち合わせていない。
養豚科など県外学生の多い学科で、概ね3(県内):7(県外)で県内に就職している事例もある。
- 県内でも農家の高齢化や離農者が多いことから、農業経営継承の取り組みを進めるべきと考えるが、離農状況は把握しているのか。
- 県ではつかめていない状況である。
- 事業承継の取組を進めることが今後重要と考える。
- 事業承継事業はあるが、うまくマッチングができていない状況。

4 情報発信の強化

- 中学生をターゲットにした情報発信が重要である。
目標値の設定の考え方を教えて欲しい。また、情報発信も外部委託も検討すべきと考える。
- 目標値は、年度目標の積み上げで設定している。
- 農業高校もインスタを始めるなどの取り組みを進めているので多くの人に閲覧して欲しい。
- インスタ以外のプラットフォームの活用は検討していないのか。

- 一般向けにはフェイスブックを活用し、若い人向けにインスタ中心で投稿している
- 学生でチームを編成し、投稿すると同世代目線で閲覧数が増えるのではないか。

5 前年の評価委員の意見を踏まえた、学校運営改善への取組

- 特になし

6 その他(農大に対する自由意見等)

- 以前も普通科系高校出身者が多かったので、もっと普通科系高校にもPRすべきと考える。
- 農大を知ったのは30代で、農業系の大学が鹿児島県にあることは重要である。
農家希望は、年齢を経過してから決める生徒も多いと思うので、小学生等小さい子供に農大の存在を知らせる取組みを進めて欲しい。